

令和8年度学会等助成 採択学会一覧

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一

8件のご応募いただきありがとうございました。

次の7件に各10万円、合計70万円を助成することといたしました。

会長／会頭(敬称略)	学会名・開催日程・開催場所	助成金額
脳神経外科学 特務教授 高見 俊宏	第41回日本脊髄外科学会 The 17th Annual Meeting of Asia Spine 日程：令和8年 6月18日(木)～6月21日(日) 場所：大阪国際会議場	10万円
皮膚科学 教授 森脇 真一	第51回日本化粧品学会学術大会 日程：令和8年 6月25日(木)～6月26日(金) 場所：有楽町朝日ホール	10万円
リハビリテーション医学 助教 土井あかね	日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会 第4回学術集会 日程：令和8年 7月11日(土)～7月12日(日) 場所：関西医科大学 牧野キャンパス	10万円
内科学IV 専門教授 武内 徹	第35回日本リウマチ学会近畿支部学術集会 日程：令和8年 9月 5日(土)～9月 6日(日) 場所：神戸国際会議場	10万円
神経精神医学 教授 金沢 徹文	第34回日本精神科救急学会学術総会 日程：令和8年 9月26日(土)～9月27日(日) 場所：高槻城公園芸術文化劇場	10万円
腫瘍内科学 教授 藤阪 保仁	第39回日本サイコオンコロジー学会総会 日程：令和8年10月30日(金)～10月31日(土) 場所：高槻城公園芸術文化劇場、高槻商工会議所 他	10万円
泌尿器科学 教授 東 治人	第40回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 日程：令和8年11月19日(木)～11月21日(土) 場所：神戸国際会議場、神戸国際展示場	10万円

※令和9年度の公募は、令和8年10月1日(木)～令和8年10月30日(金)に実施します。

詳細は、10月初旬にホームページに掲載いたします。

毎年恒例のイベントである在阪5大学医師会役員・2行政医師会役員との懇談会(大阪府医師会勤務医部会主催)が開催された。今回のテーマは、「勤務医に対する医師会の認知度向上」であった。当院全勤務医804名に対して、医師会に関する認知度アンケート調査を行ったところ98名(12.4%)(医師会員は52%)から回答を得た。その結果、医師会の活動内容や医師協同組合、医師信用組合に対する認知度は20%程度とかなり低いことが判明した。同時に勤務医の待遇改善、医師会費の減額などの要求意見が出された。これらの結果を、本学医師会を代表して森脇が報告した。

在阪5大学・2行政医師会役員との懇談会

府医ニュース
2026年2月18日 第3135号

医師会の認知度向上などについて意見交換

大阪府医師会勤務医部会(部会長=澤芳樹・府医副会長)は令和7年11月27日夕刻、大阪市内のホテルで在阪5大学・2行政医師会役員との懇談会を開催した。当懇談会は、平成8年度に、在阪5大学医師会との意見交換の場として開始。以来、2行政医師会も参加し、相互理解と情報共有を通じて勤務医部会活動の充実を図っている。今年度は、「勤務医に対する医師会の認知度向上に向けて」と「医局の変化および今後の課題について」をテーマに、同部会役員や府医役員らが意見を交わした。

懇談会は、杉本圭相・同部会副部会長(府医理事)の司会により進行し、冒頭、加納康至・府医会長があいさつ。勤務医にとって「医師会が身近な存在として認識されているとは言い難い」とし、その距離をいかに縮めるかが課題だと述べた。さらに、医局のあり方の変化に言及。懇談会での議論を通じて、教育の質と研究環境の充実をいかに確保するかについて、多くの示唆を得ることに期待を寄せた。

また、藤本康裕・同副部会長は、勤務医が直面する課題が複雑化していると語り、現場の声を医師会活動に反映していくことが、当部会に課せられた重要な使命だと言明。医師会の存在意義に関して発信することを強く推進しながら、育成・教育・連携に係る仕組みについてもともに考えていきたいと力を込めた。

医師会に関するより良い周知が必要

阪本栄・府医副会長と杉本同副部会長が座長を務め、各大学・行政医師会が、①勤務医に対する医師会の認知度向上に向けて②医局の変化および今後の課題(大学医師会のみ)――を発表した。土岐祐一郎・大阪大学医学部医師会会長、鶴田大輔・大阪公立大学医学部医師会会長、森脇真一・大阪医科薬科大学医師会会長(府医勤務医部会常任委員)、岡田英孝・関西医科大学医師会副会長、杉本同副部会長(近畿大学医師会)、笹田徹・大阪府庁医師会支部長代理、細井雅之・大阪市役所医師会会長(同部会常任委員/府医理事)が、勤務医らを対象に行った事前アンケートの結果を考察。医師会に対する誤解や認知度の低さが示され、医師会の目的や活動、関連団体などについてより良い周知を求める声が上がった。

会員の過半数が勤務医顔の見える関係性を

清水智之・同部会常任委員(府医理事)は、日本医師会員の約6割が勤務医だと前置きし、医師会が行う勤務医への支援・処遇改善に向けた取り組みを紹介した。大阪府の状況を日医や中央に届ける上で、大学・行政医師会や各病院長との連携を強化したいと説示。「顔の見える関係性」の大切さに触れ、本懇談会での忌憚のない意見を要請した。

意見交換では、医師会活動に参画する開業医と勤務医の割合に論及。役員などには、時間の割きやすさなどから開業医が多いと指摘し、勤務医の参画を増やすには、時間確保への工夫や周囲の意識改革も必要だとした。

互いに協力し診療所と病院の分断を阻止

宮川松剛・府医副会長が閉会あいさつで、第8次医療計画では府医の強い働きかけもあり、大阪基準によって病院における医師の必要数を独自に算出しているが、多くの圏域で不足していると説明。診療所と病院が分断されることなく、協力しながら進めていきたいと呼びかけ結んだ。

引き続き懇親会が催され、役員や委員らが親交を深めた。

関連するホームページ

■府医ニュース 2026年2月18日号：在阪5大学・2行政医師会役員との懇談会

<https://www.osaka.med.or.jp/doctor/doctor-news-detail?no=20260218-3135-1&dir=2025>

大阪府医師会勤務医部会第2ブロック研修会のご報告

大阪医科薬科大学医師会 副会長
(大阪府医師会勤務医部会第2ブロック ブロック世話人) 萩森 伸一

令和7年度第2ブロック研修会

2026(令和8)年1月10日(土)13時30分から、大阪医科薬科大学学Ⅰ講堂において、令和7年度大阪府医師会勤務医部会第2ブロック研修会を開催しました。

第1部：令和7年度北摂四医師会医学会総会 一般演題優秀演題賞授与式

- 難治性鼻出血に対する手術室での止血処置、蝶口蓋動脈焼灼術の有効性
武市 直大(大阪医科薬科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- 進行性認知症と痙攣を伴った成人発症白質脳症の一例
～神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症～
三間 洋平(みどりヶ丘病院 脳神経内科)



第2部：特別講演

『低侵襲血管内治療の最前線』

大阪医科薬科大学 内科学Ⅲ教室 教授 森田 英晃 先生

本講演では、循環器内科の30年にわたる低侵襲血管内治療の進歩ならびに大阪医科薬科大学循環器内科における臨床・研究の変遷について、症例提示を交えながら分かりやすく解説された。急性心筋梗塞治療の標準化、薬剤溶出性ステント(DES)の登場、FFRに基づく機能的虚血評価の確立を経て、冠動脈疾患治療は単なる解剖学的狭窄解除から、長期予後を見据えた包括的治療戦略へと進化してきたことがと強調された。また、当院におけるACS後脂質管理プロトコルの導入効果も提示し、冠動脈インターベンションのみならず、多職種連携による薬物インターベンションの重要性が示された。あわせて、緊急カテーテル治療を常時実施可能とする体制維持の必要性にも言及された。さらに、外科手術ハイリスク患者に対するTAVIやMitral Clipといった低侵襲血管内治療の発展、有症候性の評価やハイリスク患者の同定における運動負荷エコーの有用性についても示された。



講演後は聴衆から多数の質問が寄せられ、学びの多い、大変有意義な講演であった。